

平成 2 年 1 0 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

青梅市内における江戸時代の漆生産

青梅市域や奥多摩町域が柚保と呼ばれていた頃、とくに江戸時代以前に盛んに生産されていたであろう漆は、江戸時代に入り、時代の要請を背景にして薪炭の生産、石灰焼の燃料、針葉樹への転換というように変化し衰微していたものと思われます。ここでは、村鑑帳や村差出明細帳などの文書から江戸時代における青梅市域各村々の漆生産について概説します。

① 漆生産のことが記録に残されている村は 10 ケ村

現青梅市域には、江戸時代 39 の村々がありました。そのうち、現在何らかの文書が残されているのは 18 ケ村であり、文書の何らかの漆に関する記録のある村々は、10 ケ村、漆の生産なしと明記してある村は 2 ケ村、何も触れていない村は 6 ケ村でした。そして、その内訳は次の通りです。

○ 文書はあるが、何も触れていない村

河辺村、根ヶ布村、塩船村、矢野村、大門村、御岳村

○ 文書の中で“漆の生産なし”と記録されている村

野上村、新町村

○ 文書の中に漆の生産に関する記録のある村

西分村、上長淵、下師岡村、畑中村、日陰和田村、二俣尾村、沢井村、富岡村、上成木村、北小曾木村

② 10 ケ村のほとんどは現物納ではなく金納

上記 10 ケ村の中でもほとんどは永〇〇文というように金納ですませています。

上長淵村、下師岡村、畑中村、日陰和田村、二俣尾村、富岡村、上成木村がそうです。このうち、下師岡村は享保 19 年（1734）までは漆を納めていましたが、それ以降は金納になっています。

③ 記録に残る漆の現物納の最後は下師岡村の享保 19 年（1734）

下師岡村では享保 19 年（1734）「漆三盃御上納仕候。但、壺盃貳百匁入、御代永百匁ニ付永四拾文被下候」と村差出明細帳にしるされており、これが市内での現物納の記録の最後です。

はたして、市内では漆生産はいつ頃まで続けられていたのでしょうか。

(文責 川鍋幸三郎)